

暮らしを拓く



「グループホームを含めた障がいのある方の今後の暮らしについて思うこと」

千葉県障害者グループホーム等支援事業連絡協議会
会長 白井 正和

この原稿を書いている頃はゴールデンウィークが過ぎ、令和2年4月7日の新型コロナウイルスによる緊急事態宣言が継続しており、人との接触を避け不要不急の外出自粛等を国民に求めながら、地域によっては経済活動の再開、生活の制限の緩和を検討し始めています。

新型コロナウイルスの感染拡大は、日常の変化に不安を感じやすい障害のある人や、暮らしを支える支援者らにも大きな影響を及ぼしています。感染リスクを下げる対策は継続しながら、将来の社会生活を模索していかなければならない。生活を守り社会参加を実現する居場所の確保。自衛策、容易でない方も多くいます。

また、福祉サービスについて、厚労省から多くの通知や事務連絡が発出されており、支援が必要な方々の保護の継続・高齢者、障害者など特に支援が必要な方々の居住や支援に関するすべての関係者の事業継続が要請されています。

福祉サービスによっては、状況にもよりますが、利用休止、制限等行うことがあります。グループホーム等は入所支援と同様にそこで暮らす方の住まいとしての生活維持をしていかなければならない役割があります。

しかしながら、生活するうえで利用者本人の不安、事業所の不安を抱えながら運営していかなければなりません。利用者のなかには、手を洗うのが難しかったり、マスクをなぜ着けなければならないかわからず拒んだり、支援なしで、自分で予防するのは容易ではない方も多くいると思います。

今後の生活において、国民の安定的な生活の確保として、インフラ、飲食、生活必需品等がありますが、更に支援が必要な方々の支援の継続と医療との日常的なつながりが改めて重要になってきます。

現在の経験を今後の生活にどう生かしていくか、課題が具体的に見えてきている中で課題を整理し、当該事業所だけではなく、特に自立支援協議会等の地域の関係者で共有し課題解決に向けて検討していく必要があると感じます。

今後、国民の生活は以前と大きく変化して大きく舵が切られていくことが言われていますが、変化せざるをえない部分と障害のある人の生活の支援の理念は変化しないようにしなければなりませんと感じます。

今後は感染症の問題と同時に自然災害（台風、地震等）による対応も求められています。時代の流れで、特定の人課題を解決するのではなく、地域と一緒に暮らす方々と解決に向けた少しでも明るい気持ちになれたらと願っております。

「千葉県障害者グループホーム等支援事業活動、支援ワーカー紹介」

支援ワーカーは千葉県障害者グループホーム等支援事業の、委託事業として配置されています。事業の円滑な運営のために、受託法人は「千葉県障害者グループホーム等支援事業連絡協議会」を結成しています。協議会に支援ワーカー部会があり、①研修班(支援ワーカーのスキルアップを図るための研修企画)②広報班(GH等を取り巻く資源の情報発信)③イベント班(普及啓発のGH講座・大会等の企画)の体制で活動しています。

習志野園域	石塚 友子 (支援ワーカー部会長)	今年でGHW10年目となりました。この間GH制度やGHを取り巻く環境は、大きく変化しました。「障害者の住まいの選択肢の一つ」の視点と「暮らしを支える支援」の意味を日々考察していきたいと思います。どうぞ宜しくお願いいたします。
市川園域	岩崎 淳	GHを通して各地域で障害のある方々への理解と共生が少しでも広がるように努めたいと思います。よろしくお願いします。
松戸園域	小林 純平	3年目になりました。調子に乗りすぎず、丁寧に地域での暮らしを皆様と考えていけたらと思います。よろしくお願い致します。
野田園域	大橋 宣彦	GHの入居者、GHに関係する皆様の一助になれるよう微力を尽くします。
印旛園域	高橋 淳一	新型コロナウイルスの影響で、先の見通しが定まらぬまま新年度を迎えました。今年度は障害者を支援する人達の支援に力を注いでまいります。
香取園域	庄司 俊介 (支援ワーカー副部会長)	利用者さんのホーム(家)が住みやすい暮らしになるように、関係者と協力して活動していきます。
海匝園域	林 弘志	今年で4年目になりますが今までの経験を活かし、設置者、入居者問わず少しでも皆様の力になればと思いますので、よろしくお願い致します。
山武園域	宇井 菜那	生活を支える環境の一つとして、GHはもはや欠かせぬ存在となっています。暮らしやすさの一助となれるよう努めてまいります。
長生・夷隅園域	金沢 千絵	入居者が地域で安心して暮らせるように、関係する方々と共に協力して活動していきたいと思います。
安房園域	鈴木 美絵	わからないことばかりですが、たくさんの方々との関りを大切にしながら、色々と学ばせて頂きたいと思います。よろしくお願い致します。
君津園域	榎本 八重子	私がいつも心掛けていることは「笑顔」「ありがとう」と「感謝の気持ち」です。入居希望の方がGHに入ってよかったと思えるよう「笑顔」を増やしていきたいです。
市原園域	相川 大祐 (支援ワーカー副部会長)	入居者がGHでの暮らしを通じて自分らしく笑顔で過ごせるように、ともに歩みながら活動していきたいと思います。

今年度は、この12名で協力し合いながら千葉県内GHを支える活動をしていきたいと思っています。よろしくお願い致します。



第41回千葉県障害者グループホーム講座

「想い」グループホームの未来（これから）報告

2月8日（土）君津市生涯学習交流センターにて「想い～グループホームの未来（これから）～」をテーマに開催し120名の方に参加いただきました。

今回は、障害者の生活を支えるためには、どのように地域・資源を創っていくのかを事業者からの実践報告等を通じて参加者と考えていく講座としました。

午前の部では、(NPO)ウイズ 理事長 三好恵里子氏。(NPO)母里子ネット 代表理事 汐田千恵子氏よりGHや地域で不足している資源を立ち上げた経緯、これからの想いについてのお話がありました。三好氏からは「想いがあればなんとかなるさ」。汐田氏からは「一緒に考える仲間がいて、そしてその声を受け止めてくれる地域でありますように」という言葉があり、支援者の原点ともいえる想いが伺えました。

午後の部では、君津市保健福祉部障害福祉課 課長 河野喜代子氏、(社福)薄光会 ケアホーム COCO 庄司剛志氏、(NPO)夕なぎ トミー相談支援センター 富山潤一郎氏、君津特別支援学校保護者 大高涼子氏により「大規模災害を受けて、今後南総地域で出来ることは？」と題し、台風15・19号や大雨災害の状況と対応、個人や地域で出来る対策等をお話いただきました。消防団の方からの安否確認、情報収集、地域のニーズを社協と共同で対応したお話などを伺いました。

そして、参加者全員参加型グループトークでは、「親亡き後の相続」「GHの料金は？」「引きこもりの支援は」などのテーマを9ブースに分けて意見交換を行いました。1日を通してコーディネーターを務めて下さった、(社福)章佑会千葉事業部長 馬場啓友氏よりまとめとして「支えてくれる人を増やしていきましょう。多くの方と繋がるのが大切です」との話があり、地域で暮らしていくには人との繋がりが大切であることを参加者と共有した講座となりました。



今年度のグループホーム等関連イベント

8月	グループホーム新規開設セミナー（予定）
9月	第43回グループホーム講座開催（予定）
10月	第44回グループホーム講座開催（予定）
11月	第45回グループホーム講座開催（予定）
1月	第12回グループホーム大会
2月	第46回グループホーム講座開催（予定）



※新型コロナウイルス感染症や災害等により、予定が変更になる場合がございます。決まり次第、随時お知らせします。

き ど あい らく 起 努 逢 楽 のコーナー

『起業する努力、出逢いがあるって楽になる』障害者グループホーム等支援ワーカーは新規開設のお手伝いをします！また開設後の応援もしています！



松戸圏域障害者グループホーム等支援ワーカー（以下 GHW）になってから 3 年目が経ちます。業務のなかでまだまだ勉強不足を感じる日々です。

グループホーム（以下 GH）に関する業務をしていくなかで、よく問い合わせをいただくのが「GH の空き情報」です。お問い合わせ元は相談支援専門員や病院の相談員等の支援者やご本人、ご家族からです。「一人暮らしをする前の練習として」、「家族との折り合いが悪くて」、「かかりつけ医に勧められて」など理由は様々です。どんな理由であれ本人が選択したのであればいいのですが、全てがそういうわけではありません。支援者側の一方的な支援方針によるものもあれば、GH というものをあまり理解しないままで支援者に勧められたから探している方もいらっしゃいます。「とりあえず入居しておけばその方の暮らしの安心はすべて保証される」という考えを持っている方がいらっしゃいます。また、ご本人が GH 以外の暮らしの選択肢を知らされていない場合もあります。

相談を受けた際には、こちらで聞き取りをさせていただいた上で GH での暮らしを説明します。その時点で「やっぱり自分には合わないかも…」と方針を再検討する方がいらっしゃいます。また状況によってはこちらからサービスを利用しながらの单身生活や他の障害福祉サービスの利用など GH 以外での暮らし方の提案をすることもあります。

それで GHW の関わりは終わりではないと考えています。GH 以外の選択肢の提案をした際には生活を支える様々な社会資源の提示をし、場合によってはその方を支える多くの関係機関と連携をしていくことが必要だからです。

考えられる複数の選択肢を提示し、その中からご本人が自分の暮らし方を選ぶことを関係者とともにサポートし生活に寄り添えられればと思います。それでもご本人が GH に積極的ではない状態で、選択肢が GH しかないように思える相談があります。最初に書いたように、そのようなときに自分の勉強不足を痛感します。

GH に限らず、ご本人の生活に寄り添うことが GHW に必要になってくると感じております。

松戸圏域障害者グループホーム等支援ワーカー 小林 純平

松戸圏域概況（令和 2 年 1 月現在）

事業所数：42 事業所 定員数：450 名 ホーム数：124 住居（内サテライト 16 住居）

編集後記

新年度の喜怒哀楽は新型コロナウイルス流行下でのスタートとなりました。

入居者、GH の運営に係る方々もご苦労されていることと思います。

皆様の生活のお力の 1 つになれるよう読んで元気がでるような紙面を目指します。

今年度もよろしくお願い致します。



発行者 千葉県障害者グループホーム等支援事業連絡協議会

事務局 海匝圏域障害者グループホーム等支援ワーカー
旭市ロ- 8 3 8

（社会福祉法人ロザリオの聖母会 海匝ネットワーク内）

編集担当

野田圏域障害者グループホーム等支援ワーカー 大橋 宣彦